

令和元年度 青少年のための出前講座 実施報告

■宮城学院女子大学「命と心の授業」

講座名	日程	内容要旨	講師	会場
宮城学院 女子大学  命と心の 授業	令和元年 11月28日(木) 13:00~14:30	「こんにちは！赤ちゃん」 ー未来の親となるあなたへー 父性・母性を育み、家族への感謝 や命をつなぐ大切さを意識させる 親の学びのプログラム	高橋 ひろみ 氏 当会役員 元仙台市立病院 看護師長	宮城学院 女子大学  教育学部 教育学科 健康教育専攻 3年生 26名
	令和元年 11月28日(木) 14:40~16:00	「浦島太郎の気持ち」 (高齢者疑似体験プログラム) 高齢者の心と体の理解とホスピ タリティマインドの育成	石上 節子 氏 元東北大学病院 看護師長	
		「命を考える」 ー命には最期まで心があるー 緩和ケアの話から命のはかなさ 大切さ生きていることへの感謝を 意識させる	佐藤 隆裕 氏 医療法人社団 爽秋会岡部医院 院長	

7月に実施した2年生に続き3年生でも実施することができました。「こんにちは！赤ちゃん」と「浦島太郎の気持ち」を続けて実施するという初めての取り組みとなりました。これまで、ライフステージごと（新生児～老年）の看護、病気の種類と看護の視点などについて学んでいるので、この授業により、妊婦の体と親になる心情、高齢者の心と体の変化や「ターミナルケア」の意味などの学びを深める機会になればということで依頼をいただきました。

妊婦疑似体験では、エプロンの内側に赤ちゃん人形が入るポケットを付けたものを装着することで、よりリアルな体験になりました。産み育ててくれたことへの感謝が引き出され、身体的な体験にとどまらず立場や気持ちを考えることができたと思います。高齢者疑似体験では、高齢者や病気の方々の背景にある生き様や普段の生活風景などに思いを寄せ、これからの生き方を考えるきっかけにもなったと思います。「命を考える」講話に関しては、まだ若い学生でも自分の生きる価値や意味について模索している様子がみられましたが、「生まれたから生きる」という講師の言葉から、毎日を自分なりに一生懸命生きることへに希望を感じたようでした。妊婦と高齢者を一緒に体験できたことで相乗効果があり、より気づきを深めることができたのではないかと思います。

また、将来養護教諭を目指すにあたって、様々な気持ちでいる子どもを思いやり少しでも楽になるような支援をしたい、親が子を思う気持ちを考えいろいろな角度からサポートできるようになりたい等の意見が見られ、将来に向けてのやりがいを感じる機会になったのではないかと思います。

■学生の感想（アンケートより）

<b>1. 講座に参加していかがでしたか。（当てはまるものに1つ○をして下さい）</b>			
①たいへん良かった	26名(100%)	②どちらかという良かった	0名(0%)
③どちらかという良くなかった	0名(0%)	④全然良くなかった	0名(0%)
⑤どちらともいえない	0名(0%)		
<b>2. 何が一番良かったですか？（当てはまるものに○をして下さい。最大3つまで。） また、どういう点でそう思われましたか。（ご自由にお書きください）</b>			
①「赤ちゃん(命の誕生)について」講話	8名(31%)	②妊婦疑似体験・グループワーク	24名(92%)
③「浦島太郎のきもち」講話	6名(23%)	④高齢者疑似体験・グループワーク	18名(69%)
⑤「命を考える」講話	9名(35%)		
<b>3. 参加評価</b> 平均評点 = $(5 \times 26) \div 26 = 5$ (5点満点)			

